



Фестиваль российской культуры в Японии-2022



ロシアの新星コンサート

巨匠が見出したきらめく才能！

新型コロナ禍4度目の招へい実現！

ヴァイオリン&トロンボーン&ピアノのコンサート

ヴァイオリン



ラヴィリ・イスリヤモフ

Равиль ИСЛЯМОВ

2016 第3回全ロシア音楽コンクール優勝（モスクワ）
第12回ベートーベン記念国際ヴァイオリンコンクール
グランプリ受賞（オーストリア）
国立モスクワ音楽院在学中
(ロシア人民芸術家A・ヴィニツキイ教授に師事)
21才

トロンボーン



アレクセイ・ロビコフ

Алексей Лобиков

国立サンクトペテルブルク音楽院卒
2016 同音楽院で教鞭を執る
2019 第16回チャイコフスキイ国際コンクール優勝（モスクワ）
35才

ピアノ



アンドレイ・チェルコフ

Андрей ТЕЛКОВ

2013 ヴィトル国際ピアノコンクール優勝（リガ）
2008 ショパン国際コンクール2位（エストニア）
国立サンクトペテルブルク音楽院卒
2012 シューマン国際コンクールディプロマ受賞
31才

演奏曲目（予定）

- L・ベートーベン／ピアソナタ第5番ハ短調op.10-1
- P・I・チャイコフスキイ／
なつかしい土地の思い出op.42/1
ワルツ・スケルツォ op.34
- B・アップルモント／
トロンボーンとピアノのための協奏曲
(トロンボーンのための「カラーズ」黄一赤一青一緑)
- S・フェルヘルスト作曲／佐藤誠一編曲／
A Song For Japan
- A・ギルマン／交響的小品op.トロンボーンとピアノ
- P・I・チャイコフスキイ／
ドゥムカ ロシアの農村風景ハ短調op.59
- M・ヴァインベルグ／
ヴァイオリンとピアノのための
「モルドワ・ラブソディー」

2022年 8月30日火 18:30開場 19:00開演

31日水 18:30開場 19:00開演

9月1日木 18:30開場 19:00開演

さいたま／さいたま市文化センター小ホール

横浜／関内ホール小ホール

武蔵野／武蔵野市民文化会館小ホール

入場料：全席指定 一般2500円 学生1000円

問い合わせ先・チケット：ロシアン・アーツ ☎03-5919-1051 (平日11:00-17:00) russian-arts@e-mail.jp
サウンドポート ☎045-243-9999

招聘：ロシア文化フェスティバル日本組織委員会&ロシアン・アーツ

協力：連邦国家予算文化機関サンクトペテルブルク音楽会館

後援：ロシア連邦外務省、ロシア連邦文化省、駐日ロシア連邦大使館、ロシア連邦協力庁、日ロ協会、INARTEX

「芸術の大天使館」プロジェクト ヴァイオリン&トロンボーンとピアノのコンサート

曲目解説

L・ヴァン・ベートーベン ／ピアソナタ第5番 ハ短調 op.10-1

ベートーベンのピアソナタの約半数を占める3楽章形式の最初の作品で初期の代表作の一つです。明快な形式感を備えたソナタ形式の第1楽章、室内楽書法を思わせる美しい緩徐楽章、それにプレスティッジモの緊張感に満ちたフィナーレから構成されています。



石田一志（音楽評論家）

アップベルモント『カラーズ』のみ、Z·M·グセイノヴァ教授

P·I·チャイコフスキイ ／なつかしい土地の思い出 op.42/1／ワルツ・スケルツォ op.34

「なつかしい土地の思い出」は1878年に作曲されました。チャイコフスキイが療養で過ごしたことのあるイスのクラランの思い出とされています。3曲からなりますが、ここでは「瞑想曲」と題された二短調の第1番を取り上げます。

「ワルツ・スケルツォ」は、29歳で早世した弟子でも友人でもあったヴァイオリン奏者ヨーゼフ・コテックのために書かれました。技巧的な作品で、作曲は1877年、翌年パリで初演されました。



B・アップベルモント ／トロンボーンとピアノのための協奏曲 (トロンボーンのための「カラーズ」)

ベルト・アップベルモント（1973年生）は、現代ベルギーの作曲家、教師、指揮者で様々なジャンルの作品—ミュージカルを2曲、交響曲を2曲、オペラおよびオペレッタ、合唱曲など50曲を書いている。ベルギー国内外で演奏する指揮者としても有名。アップベルモントの作品で特に注目されているのは、トロンボーンのための協奏曲「カラーズ」で、これは演奏者や聴衆に認知されている。これが書かれたのは1998年で、作曲家の言葉によれば、トロンボーンのアマチュア奏者である彼の兄弟に影響されたものだという。この楽器の可能性を綿密に研究したことが、アップベルモントにトロンボーンのレパートリーを飾る、印象深い現代曲を作らせたのであった。作曲家はこの協奏曲についてこう述べている。「一方で、私は黄色、青色、赤色および緑色のための独奏曲を作りたかった。それらの色に結びつく性質や連想そして感情を伝えたかったのだ。各楽章に色の名前が付けられている：1) 黄色、インスピレーションを与える色として（賢明さと光の色もある）、2) 赤色、ダイナミックで情熱的でありドラマチックで激しく闘争的にさせる色として（勇気や意志の力の色もある）、3) 青色、メランコリックさ、夢の現われの色として（眞実や平和の色もある）、4) 緑色、希望および希望を運んでくる色として（落ち着きや調和の色もある）。」

S・フェルヘルスト

／佐藤誠一（1966-）編曲 A Song For JAPAN (トロンボーンとピアノのための編曲)

「A Song For JAPAN（日本に捧げる歌）」は、東日本大震災の被災者たちを音楽で応援するために、世界中のトロンボーン奏者が一緒に立ち上げたチャリティ活動のプロジェクトの名称。その活動の一環として、ベルギーのトロンボーン奏者兼作曲家・編曲家のスティーヴン・フェルヘルスト（1981～）が、同タイトルによるとても素敵な旋律を作曲した。以来10年、トロンボーン・ソロの原曲楽譜は無料ダウンロードされて、交響管弦楽団用まで数々の編曲が生まれ、様々な演奏がYouTube上に発表されている。

A・ギルマン

／交響的小品 op.88トロンボーンとピアノ

演奏：アレクセイ・ロビコフ（トロンボーン）、アンドレイ・チェルコフ（ピアノ）

作曲者のアレキサンドル・フェリ克斯・ギルマン（1837～1911）は、フランスのベル・エポック時代を代表するオルガン演奏家で教育者。パリのトリニテ教会のオルガニストを務める傍ら、欧米各地で聴衆を熱狂させた。また教育者としては作曲家のダンディ、指揮者のボルドーと共にスコラ・カントルームを設立。同時にパリ音楽院のヴィドールのクラスを受け継いだ。この「交響的小品」は1902年、パリ音楽院の卒業試験の為に書かれた、伸びやかな旋律と近代的な和声が豊かな表情を織りなすフランスのトロンボーンの名曲。

P·I·チャイコフスキイ

／「ドゥムカ ロシアの農村風景」ハ短調 op.59

「ドゥムカ」は18世紀にポーランドで起こった叙事詩による民謡の形式です。哀歌の部分と楽しげな急の部分の交替からなるこの民謡の形式で作曲されています。

M・ヴァインベルグ

／ヴァイオリンとピアノのための「モルドヴァ・ラプソディー」op.47

ミエチスワフ・ヴァインベルク（1919-96）は、ワルシャワに生まれモスクワで没したユダヤ系作曲家。ショスタコーヴィチがその才能を高く評価していましたが、生前は国外に紹介される機会はありませんでした。ヴァイオリンのクレーメルの活動で、ここ数年、世界的な再評価が素晴らしい勢いで進んでいます。ナチとスターリン体制下の生命の危機、迫害・差別のなかを精力的な創作活動で生き抜いたこの作曲家の、いわば暗闇と光明、涙と笑いが交差する彼の作風は、強く印象的です。これはウクライナとルーマニアに国境を接する小国モルドヴァ（モルダヴィア）の民俗音楽に基づく1949年の作品。同じ作品番号のオーケストラ版も是非聴いてみてください。

新型コロナウイルス感染状況等によりプログラムに変更がある場合がございます。

サンクトペテルブルグ音楽会館とは



2006年2月、クラシック音楽芸術の振興、伝統的演奏芸術の保護、そしてロシアの若手音楽家の国際コンクールおよび音楽祭に照準を合わせた教育・育成を目的にロシア連邦文化省の主導で開設。この指揮を執り芸術監督となったのは、ロシア人民芸術家で元国立サンクトペテルブルグ音楽院学長（2003-2004）のセルゲイ・ロルドーゲン。同氏は「若手演奏家の育成には、観客との真剣勝負、つまり自分が観客と真摯に向き合うコンサートが必要不可欠」と考えており、賛同する篤志家も少なくない。音楽会館は2006年から2018年に1380を超える演奏会を行った。ロシア国内では地元サンクトペテルブルグ、モスクワ、北カフカス、エカテリンブルグなど、国外ではヨーロッパ、アジア、アフリカ、南米アメリカのロシア学術文化センターなどで3577回の演奏が行われている。ちなみにサンクトペテルブルグ音楽会館はアレクサンドル3世の兄弟アレクセイ大公の宮殿を使用している。宮殿内にはコンサートホールのほか見学用に開放されている部分もある。